

## 「学生 1 人 1 人の個性的な英語力の可視化を目指して」

卯城 祐司氏（筑波大学）

### 【講演要旨】

学習指導要領の改訂に伴い中高の英語教育がどのように変わり、また今後変わっていくのか、英語力の経年変化についての先行研究を概観する。そして、試行調査（プレテスト）を経て導入された大学入学共通テストの狙い、そして、令和 7 年度の試作問題をもとに、「実際のコミュニケーションを想定した目的や場面、状況の設定」について、また、「英語の知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況に応じて適切に活用できる技能」について考える。

その上で、現在、中高生が取り組んでいる「目的や場面、状況に応じた理解・表現」の難しさや、「自分のことばで語るべき」リテリング（再話）が暗唱に終わることも多いこと、唯一出来ると思われているリーディングが「読めたつもり」に終わっていること、このリーディングを変えることが 4 技能 5 領域全体の改善にもつながることについて、ふれたい。

最後に、自身の英語授業も省みながら、全ての大学で、また、各大学所属の全学生が同じ英語力を目指すべきかを考えたい。たとえ英語がそれほど得意でなくとも、英語が好きな学生はいる。その 1 人 1 人の英語の個性をどう伸ばすのか、英語と共に育つ学生の姿を思い浮かべる必要がある。また、学生たちの個性的な英語力を、どう可視化するか、私たち教員の力量も問われている。さらに、卒業後も、生活の一部に英語が入っているような大きなビジョンを示すべく、私たち教員自身も常に英語と共にありたい。



卯城 祐司（うしろ ゆうじ）

筑波大学人文社会系 教授

博士（言語学）。道立高校 3 校、北海道教育大学釧路校を経て現在、筑波大学教授。全国英語教育学会会長、小学校英語教育学会会長等を歴任。趣味はマラソン（調子が良い時はサブ 4）、にゃんスタグラム（mogimogi\_yomogi）に大型バイク（カワサキ Z900RS）。